

プログラム名	川に学ぼう ～しぜん・ちいき・くらし～	
実施団体	○団体名：カワラバン ○代表者名：菅原 正徳 ○電話：090-9745-3571 ○FAX：022-739-8814 ○住所：仙台市青葉区中山 6 丁目 1-12 ビューテラス K101 ○E-Mail：mibo_sebo@yahoo.co.jp ※プログラム提案団体：特定非営利活動法人 水・環境ネット東北（平成 19 年度）	
対象者	幼児 小学生 中学生 高校生 成人	
対象人数	60 人まで	
学習場所	室内	
学習時間	45 分（30 分～1 時間の範囲で調整可能）	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	実施団体側	水槽、エアーポンプ、スライド資料（パワーポイント）
	利用者側	パソコン、プロジェクター、スクリーン、延長コード
事前打ち合わせ	実施希望日の 2～1 ヶ月前と実施直前の 2 回	
効果的な学習段階	小学校の場合 1-2 年生活、3-4 年理科・社会、5-6 年理科・社会、3-6 年総合の関連項目学習時。 または、川での活動を予定している場合は事前学習として。	

学習概要	1. 学習のねらい	
	(1) 地域の川（広瀬川・名取川・七北田川・梅田川など）の概要や生活との関わり、そして川の生き物について学ぶことで、川や地域への関心と愛着を高める。 (2) 水の循環を学ぶことで、環境への配慮と世界とのつながりを考える。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	(1) フィールドの概要 ○地図を見ながら水源から海までを辿る（例 広瀬川）	(☆は小学校指導要領より、学習する内容がどの教科に関連するかを表しました。) <ul style="list-style-type: none"> ・面的に川を見ることで流域には多くの市民が生活していることを知る ・堰やダムが存在を知ること、飲料水、農業用水、工業用水として川の水が使われていることを知る ☆身近な自然に関心をもつ（1・2 年生生活） ☆飲料水、電気、産業との関わり（3・4 年生社会） ☆農業と土地利用（5 年生社会）

(2) 上流・中流・下流の特徴

○写真を見比べ上流から順に並べ替える



○それぞれの地点にすむ魚類、水生昆虫

(3) 地域の川の魚類、水生昆虫

○地域の川にすむ生き物の観察

**(4) 水の循環**

○水が存在する要素（海、植物、動物等）をとおして水の循環を考える

・各地点の写真の比較から石、川幅、水量、水質、水温、周辺環境がそれぞれ異なることを知る

☆地域の特色ある地形（3・4年生社会）

・種ごとに適した生息環境があることを知る

☆生物とその環境（5年生理科）

・地域の川から採取してきた生き物に実際に触れることで学習効果を高める

☆生物とその環境（3年生理科、6年生理科）

・川や海以外にも水が存在することを知り、なによりも身近な存在であることを再認識する

☆水の状態変化（4年生理科）

4. 学習のまとめ

- 流域には多くの市民が生活するとともに川は生活にも深く関わっている。
- 川はその場所により石、川幅、水量、水質、水温、周辺環境はそれぞれ異なり、そこにすむ魚類、水生昆虫も異なる。
- 水を汚せば多くの人や生き物に負担をかけることになり、いずれ自分のもとへ跳ね返ってくる。

追加・変更できる学習内容

- （3）のサンプルを飼育し生態を観察することも可能です。生物を自然から切り離した場合、生命を維持するのがいかに大変かを体験することができます。
- （4）ではカードやサイコロを使って水の循環を疑似体験するプログラムの実施も可能です。低学年でも楽しみながら、水の循環を考えることができます。
- 学年や目的に応じて、深めたい内容やそうでないものの時間配分や取り扱いを調整できます。

事前・事後学習についての助言

プログラム「川で遊ぼう」とあわせて学習に取り入れるとより効果的です。

雨天時の学習内容

変更なし

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/manabou.html>